

平成30年5月18日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題	中山・長福地区で基盤整備の安全祈願祭が開催！ in 津和野町 ～区画と用排水の再整備で更なる営農展開を～
----	---

(ダイジェスト)

津和野町中山・長福地区では昭和57年度から県営ほ場整備事業を実施し、同62年9月には全国初の集落営農型農業法人「農事組合法人おくがの村」が誕生。現在は3つの法人が存在し、先駆的でモデル的な集落営農が行われています。

昨年度、ほ場の再整備に向けた事業が採択されたことから、先月14日(土)に安全祈願祭が開催され、関係者一同で工事の安全と営農の更なる発展を願いました。

現在のほ場は平地部で20a程度、山間部で10～15a程度であり、整備当時としては効率的な営農が行われていましたが、その後機械が大型化することに伴い稼働性が劣るなど、営農に支障を来してきました。また水路等の施設も老朽化し、経費と労力の負担が増えてきています。

こうした状況から、地域農業の更なる発展に向けた話し合いが進み、各工区(4工区)の実情を踏まえた再整備に取り組むことになり、ほ場の大区画化(最大約80a)や用水のパイプライン化等が実施されることになりました。

**【事業概要】**  
事業費：約880百万円 受益面積：区画整理46.2ha、用排水整備：15.7ha  
工事内容：区画整理46.2ha、用排水路整備4.4km  
工事期間：平成30年度から9年間

今回の基盤整備では、更なる農地の集積・集約化や農業の高付加価値化が求められており、農業普及部としても関係機関と連携し、中山間地域の新たなモデルとなるよう支援していくことにしています。

また、地元からは除草作業の省力化を望む声もあり、畦畔除草の機械化のための畦畔天端幅2mの確保、法面除草の省力化のためのカバープランツの植栽が検討されており、これらに関する他地域の情報も逐次提供していくことにしています。



【祈願祭の様子】